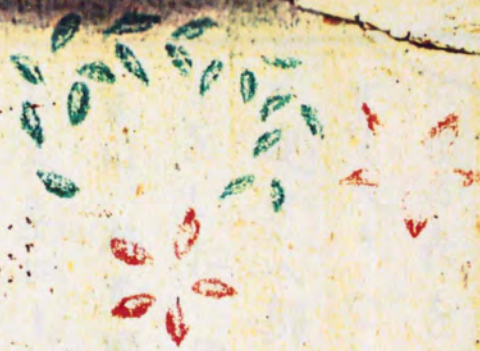


立
子

日記帳

二部六年

乙葉裕子



六月二十日

木曜日

前中、授業だがずっと自習なので、発表會
に使う表を作った。小さな紙を何枚もはりあは
せて大きな紙を作った。
午後家へ歸っておけい
こをした。今度の発表

會は、福光國民學校の
お友達にも見ていただ
くので、いっしょけんめ
いおけいこをした。

夜ほたる狩りに行った。あちにもこちにも
たくさん光ってゐた。小さなちんをさげて、
たのしそうに飛びまはつてゐた。私達はよろこ
んで、そのほたるをおっかけた。

六月二十二日 金曜日 晴

午前中、女學校の体れん教室で発表會のれん習
をした。まだはつきりおぼえてゐないので、
いっしょけんめい讀しやうをした。

午後はトラップをして遊んだ。とてもおもしろ
い。遊んでゐる時、急に

はーとのシミがなくなつ
てしまった。さがしたがあな
なか出てこない。きつねに

つまみれたやうな氣がして、とてもぶきみだった。
手をつねったりしたがあやほり感じた。



六月二十三日 土曜日

午前中は発表會のよかう演習をや學校の講堂でした。今日はゆっくりと見た。外では雨がしとしとと降ってゐて、さみしいやうな気がした。
午後にはいくつなので窓から外の景色を見たが、楽しく木々草々とお話をした。

六月二十四日 日曜日

今日はとんより曇ってゐて風がとてつよい。朝食後発表會の次第をかいた。

一部六年のれん習する時間は午後なので、午前中は日記をかいた。

午後一時半頃かう講堂でおけいこをした。だれもあなくて静かなので、聲がとてみびいた。

夕食は、黒板にかいてある

「明日は母校の名よのため、明日は

かんばれ」といふ心強いさどばを前に楽しくいた

いた。
明日の発表會をしかりやう。

六月二十五日 月曜日

待受に待った発表會。又、今日は皇后陛下

御仁しんの日だ。朝食後拜賀式をした

十時から、福光、赤松の生徒さん先生方をあ



招きして、楽しい発表會を開いた。私は班

なので、前に出てしかい者になった。初達は二番目

に、いっしやうけんめい

やった。昨日の黒板のこ

とばを思ひだしながら、

どれもこれでも二十三日の

時よりずっとお上手だ

た。このやうな発表會が

無事に修了了出来る

のは、みんな兵隊さん方の

おかげだと思ふととても

有がたい。午後は寮へ歸り、お洗濯をした。今日

はたくさん洗ひものがあつた。

六月二十六日 火曜日

今日は西太美村まで新運ばんに行つた。

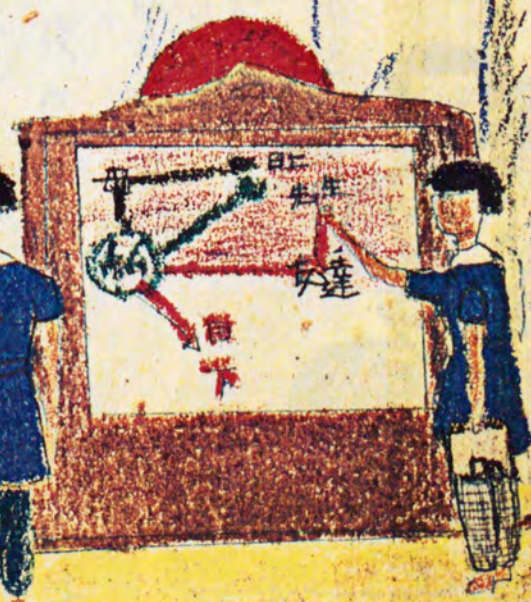
せい村所はすぐ近くだつた。道ぐを置き、

新を道路へ運んだ。元氣よくやつてゐる

と、仕事かだんだんおもしろ

くなつて来る。何回も何回も

運んだ。たちまち、新の



いさーと流れる小川の前で、ゆーりおべんたうをいただいた。歸りは、重いや新をせえて、山下祭として、元氣よく歸った。

六月二十七日

手で運搬す氷曜日？

今日も又新運搬だ。午前中、午後一回

運ぶのだ。行きはずおぶん遠く感じた。

約一時間休んでから、元氣よく、薪を持って

歸った。昨日よりはずっと重い。兵隊さん

事を思って、最後までがんばった。

午後はもうずおぶんつかれてみたが、これ

ら、おでまけるものかどかんばった。

夕食後、久しぶりに情

報があった。沖繩もと

うとう敵の手でやられ

てしまったのだ。くやし

てたまらない。これから

はもっともっと、戦力増強にまいしんなくて

はならない。どんなに苦しい事でも最後までが

んばりぬかう。日本は必ずかつのだ

六月二十八日 木曜日

午前中自習なので、祭でお洗濯をした。と

てもよいお天気なので、お洗濯するにはとて

もよい。きれいに洗った。すんでから、お部屋



の大掃除をした。うすべりも取った。と
もさっぱりした。今晚は
ゆっくり寝られるだらう。
うれしいな。午後は
自習をした。風がすうーと入って
来てとても氣持がよかった。

六月二十九日 金曜日 曇

今日の薪運びは、福光校のお友達が手傳つて下

さるのだ。私達のために、わざわざ西太美まで来て

下さるのだ。肩がたいなと思った。行って見ると

もう作業にかかっているしやうだった。私達の三倍位

も持っていていらしたのでびっくりした。何とい

てお禮をしてよいかわからなかった。私達に出

来る事なら、なんでもお手傳ひをしたいと思っ

た。山と焚かれてみた薪も、たちまちのうち

なくなってしまった。私達のこたは薪を持って歸った

福光校のお友達に負けないやうな立ちはなから

だをつくりたいと思った。

六月三十日 土曜日 雨

雨だ。今日はふ通通り授業をした。三時間目は、

福光國民学校の山田先生が、入隊なさるので

送行式をした。とてもリッパな御たいかくで

いらした。このおからだも、今にはくだんと



なつて、敵陣につこんでいらつしゃるの
だ。なんだが神様のやうに見えた。



萬歳—萬歳—

この聲はいつまでも講堂にひび
いた。なんともいへない氣持だっ
た。今日でもう六月も終りだ。
この一ヶ月間、班長としてくら
ひて来たのだ。しつかり出来たがしら。

七月一日 日曜日 曇

もう七月になった。今日の班長さんは相良さんだ。
相良さんはとてもしつかりしていらつしゃるから

きつとこの七月は元氣よくやつて行けらだう
時間目と二時間目は自習なので、ふさの
皮むきをした。いろいろなお話をしつやに

のですぐ時間がすぎってしまった。あくで
が真黒になつてしまつた。マワロゲ

午後寮へ歸つて、お晝寝を

した。そのあとで頭洗ひを
した。とても氣持よかつた。

七月二日 月曜日 雨



今日は休養だ。お洗濯をするはず

だった。雨が降つてゐるので、出来なかつた。

雨が降つてゐて寮へ歸りたくないの、で、サ
学校で自習をしてみた。

夕方おさんぽをした。疎開學園の島を見に行
南風、豆などいろいろなものが、たくさん植え
てあつた。

七月三日 火曜日 曇のち晴

今日もあやしいお天氣だ。二時間目は寮へ歸つて
お洗濯をした。時間がな

いの、でいそいで洗つた。

午後から、青空が出て、

い、お天氣になつた。私達

は、阿部先生につれられて

味、しゅう油を取りに行つ

た。配給所はわりと近

かつた。田島さんと二人でおしゅう油のおけを持つた

こぼさないやうに氣をつけ、持つて行つた。

七月四日 水曜日 曇

今朝學校で、窓から外を見ると、むらさきのきれ

いなあざさの、花が美しく咲いてた。

朝會はひびし、ぶりに外でした。素足で土をふむ

と、とても氣持がよい。元氣よくやつた。

晝食後、相良さんのお母様が面會にいらつしや

た。午後はずつとお晝寝をした。いっしや

うけんめい、やつたのでまた下縫ひまで出

来てしまつた。とてもうれい。あと、こむ

通しだけだ。この次のお晝寝の時間、がま



どほしい

七月五日 木曜日

曇のち晴

今日も曇り、いつになつたらよいお天気になるの
であらう。

三時間目は阿久澤先生が電波兵器のことに
やっていたいろいろのお話をしでいただいた。とても
たくさんあるが、まだまだB29のやうな電波は
出来ていないのだ。それを私達の手で作るのだ。
そして日本のお役にたつのだ。キッとやろう。

夕食はとても御ちさうだった。私達にはなに
かなんだかわからない。でまかたくさん飲んで
みた。すると齋藤先生が

「今日は石田先生がお家さんをおもらひになつた
のでお祝ひをするのです。」

とおっしゃたので、みんなざっと笑った。石田先生
が「こんなさなとは思つてゐなかつたから、だ
感射のもくたうをささげて楽しくお祝ひを
のちさうをいただいた。」

七月六日 金曜日

今日も曇りだ。今日のお授業は図書館で

やった。静かなので勉強がしやすかった。

午後は大すきなお裁縫。今日はこむ通しを縫
た。こむ通しならすぐ出来るだらうと思つて
みたが、時間かかってしまった。あとこむを通し
てポケットをつけろと出来あがるのだ。早くはい

みたので気がせいけたまらなかつた。

七月七日

土曜日 曇り

今日は支那事變記念日だ。二時間目から外で
日の學徒隊結成式のおけいこをした。主に

進出した。水たまりがたくさんあつて、
はねた。でも元氣よくやつた。

夕食後、英霊を迎へに駅ま
行つた。雨が降つてゐたが

傘をささずにひきしまった。で、お迎えした。

七月八日

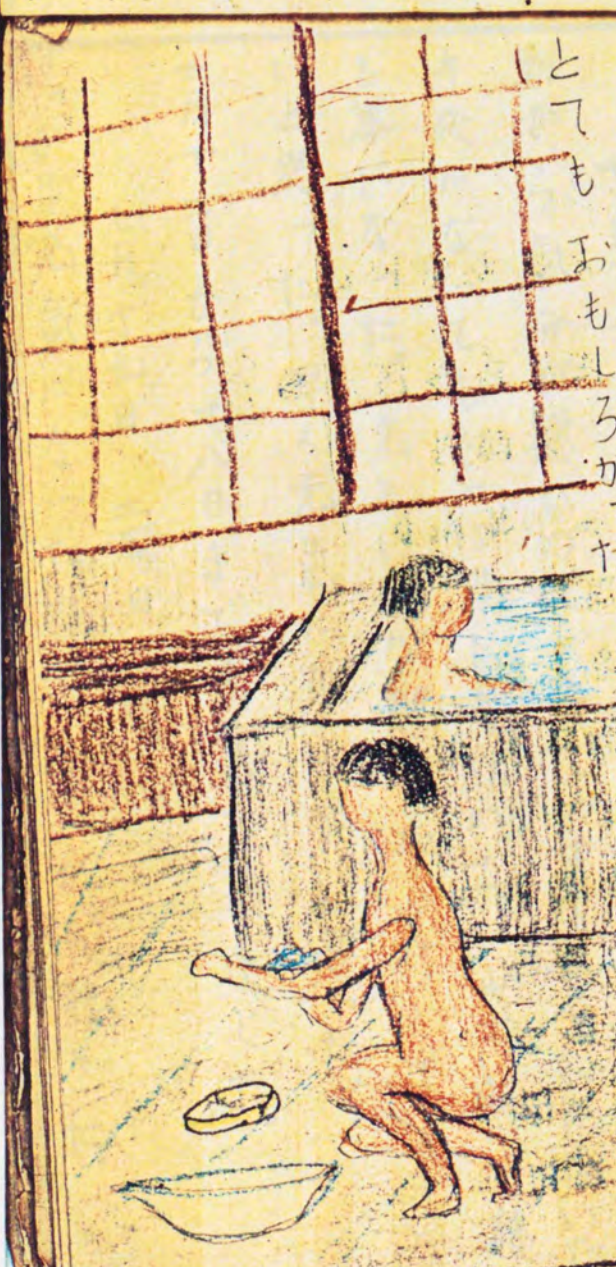
日曜日

五時起床。ねむい目をこす。ながら飛び起きた。

今日は學徒隊結成式がある。私達はさん髪に行つた。ひ
午前中慰問文作業。私達はさん髪になった。のみを切つた

さしぐりにとてもきれいになった。午後かみ洗ひをした
のでばう子がぶかぶかだ。夜お風呂に入らなかつた。

とてもおもしろかつた。



七月 九日 月曜日 曇りの晴

午前中ふ通通り授業だった。

晝食後六年はすぐ町葬に参加した。第一戦ではなばなしく戦死された六柱の英霊のお寫眞がうやうやしく拜まれた。有がたくてしぜんとあたまがさがる。終つてから、すぐに校門へせいれつし、この六柱の英霊をお送りした。そのころから日がぼかぼかと照りだして、ぬれた青葉バともきれいだつた。

七月十日 火曜日 晴

ひさしづりによいお天気だ。今日は楽しいお餅つき。午前中は先生方がお餅つきにいらつしやつて自習なので、私達は寮へ歸つてお洗濯をした。私は木影でした。とてもすすしい。大島さんのお母様が、私を下駄のはなををすげて下さったので、さうさへはいた。

夕食の時おいしいがんばり餅。のびるのびる。日本がさかへて行くやうに。これをいただいて、りっぱなかうだをつくるのだ。

七月十一日 水曜日

昨日あんなに晴れてうれしいと思つてみたのに、又曇りだした。つまらない。

今日は授業が午前中で終りなので、午後寮へ歸てゆっくり三時半ごろまでお晝寝をした。すすしい風が、すつとほほをなでて通る。なんといふよい氣持であらう。ぐっすりと眠つてしまった。夜高田先生にきくのおばけのお話をしていだいた。とてもおもしろかつた。

七月十二日 木曜日

一時間目の圖工は寫生も終つたので、今日から製圖のおけいこをすることになった。きものの目のやうなこまかい線をひくおけいこをした。

午後の午睡のあとで、三時から女學校でお裁縫をした。ポケットも出来あがり先生にお出しした。先生はすぐかへして下さった。もうはいてもいいのだ。ちやうどいい。おたんじやう日の日ひらはかうと思つた。二 似合ふかしら



七月十三日 金曜日

朝から氣分が悪いので、寮でやすませていただいた。午後になつてもさっぱりしないので、山下寮で寝る事になった。先生に御心配をおかけしてすまなうと思つた。早く元氣にならうと思つた。

七月十三日から十八日まで病氣で寝ました。

七月十九日 土曜日 晴

すっかり元氣になつたので、今日から起きた。

午前中は寮でお洗濯。終つてから、明日の高田先生のお祝ひものをつくつた。上手には出来な
いがバだけでもと思つていっしやうけんめい作
た。

今日は石田先生に召集令が来たのでその送行
會をした。石田先生がだんの上におたち樹なつ
た時は、しぜんと頭がさがった。今までは私達
にいっしやうけんめい、いろいろな事を教へて下さ
りお世話して下さつた石田先生が……
「有がたうございました。お禮のことばでいっばい
だった。夕食はお餅が出た。石田先生をお祝
ひしながらおいしくいただいた。夕食後みんな
で歌を歌つたりした。石田先生はとてもよろこ
んでいらつしやつた。

七月二十日 金曜日 晴

晴れた。久しぶりに運動場へ出て元氣よく運
動した。バがはれられする。一時間目の算
数はなつかしい青天井の下でお勉強した。
つぱり外の方が氣持がいいなと思つた。

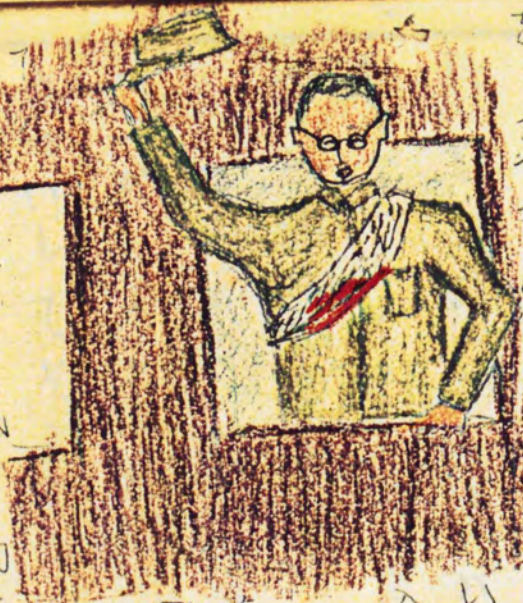
午後は六年女子だけで、立野ヶ原れん兵所へじ
がいも取りに行った。暑いのでうすぎで行つ
た。男の子たちが川で楽しさうに泳いでみた。
あんなに上手におよげたらなーと思つた。

ひろびろとしたくんれん所には今日も、夏の
日がじりじりと照りつけてみた。小さいりく
さつくにはいるくらしいのじゃがいもをもつて、山
下寮へ向つて行つた。ももいろのかはいい花が、
あちこちに咲いてみた。

夕食後寮へ歸つてから高田先生にお祝ひもの
をさしあげた。先生はとてもよろこんで下さつた。

七月二十一日 土曜日

今日は石田先生が朝早くお立ちになるので、
私達はお送りした。ばんだのさくらかえりの
色、元氣よく歌を歌ひながら石田先生をせん
たうに福光驛へ向つた。まだ時間が早いので驛
でいろいろな運歌を歌つた。石田先生もほほえみ
さうかべながらいっしやうに歌つていらつしやつた。
いよいよ時間なので驛へ
入つた。



石田先生萬歳。萬歳。

「ピ」シシシシ

汽笛の音とともに汽車が
驛へへつた。いよいよおわ
かれの時が来たのだ。
私達は汽車の見えなくなるまで、手を振つた。
汽車が行つてしまふと、とてもさみしくなつた。

夕方セ理さんのお母様とお姉様か面會にいらつ
しゃった。さうして、しをりやお人形さんなど
を、私達に下さった。とてもうれしい。だいに
しまっておいた。

七月二十二日 日曜日

今日は二十二日。行運の日だ。ちやうど晴だ。今
日の行軍は、小矢部川の流いぎにある橋を渡
まはしてくるのだ。二時間ほどで行けるのでな
にももたないで行った。橋がもう二十程往のびて
いぎいぎとしてゐた。久しぶりの行軍なのでと
てもつかれる。休けいになるのが待ちどほしかった。
つともくゞの橋についた。ぎしぎしと大木
の音をたててながれてゐる。この間お辨當を
いただいた中州も、今日は水び下しになつて
ゐた。そこから立野ヶ原へ出て歸った。

七月二十三日 日曜日

午前中授業だった。
お晝にセ理さんのお母様がお歸りになった。午
後は久しぶりに運動場で体操をした。行進の
おけいこをしたりした。一時間運動をしたの
でとても元氣が出た。
夕食の前に英霊をお迎へした。今日はみんな
校服を着たのでとてもきれいだった。

七月二十四日 火曜日

朝會後すぐに寮へ歸つてお洗濯をした。

今日のお洗濯は川のふちでした。じりじりと日が
つて、背なかがとてもあつかった。
午後は音楽室で午睡をした。眠かったの
で、ぐすり寝てしまった。目がさめた時はもう五時
だったの、びっくりした。

七月二十五日 水曜日

今日は私のおたん生日だ。うれしいなあ。今日日
はすっかりくらさうと思つた。久しぶりによ
いお天氣なので午前中は薬草取り行軍にかはつ
た。サ子は小矢部川の橋の向かふ、男子は橋のこ
ちらと両方にわかれて取つて行つた。三橋さんは
袋を持っていっぱしやらなのでいっしょにいれてあ
げた。あまりないのでつまらない。目につくのは
いちごばかりだった。だんだん道がわるくな
てくる。石の上は下駄なのでとてもあるきにくか
つた。やつとむかふの橋が見えたところとうとう道が
なくなつてしまった。草をわけあせ道を通つて
やつと橋にたどりついた。とてもつかれた。橋
で休まふと思つたらすぐ出發になつてしまった。
そこからすこし行つてひかげのところまでゆつくり
休けいしてそこから元氣を出してサ學校へ向つ
た。
今日はとてもつかれた。

七月二十六日

木曜日 晴

今日は午前中先生がいっしょにしゃらないので、ずつと自習をした。

午後炊事のをばさんといっしょに、お野菜の配給を取りに行った。日がじりじり照り、通りは人が急がしそうに、右往左往して、とても夏らしい。アートトラックがほこりをたてて通る。やつと配給所についた。なまなましいきょうり。ごるに入れ、七理さんと二人いまた道を歸った。暑い暑い。もうすこしとがんばった。働く事はとても楽しいものだと思つた。

七月二十七日

金曜日

今日の授業は図書館だった。とてもよいお天気なので午後は寮へ歸ってお洗濯をした。暑いので帽子をかぶってやった。川のぶちなので石けんを流したうたいへんだ。相良さんと並んでやった。すっかり出てから午睡をした。



七月二十八日

土曜日

今日は薬草取りだ。暑いのですがさをかぶって行った。

今日の薬草取りは、福光橋から、下流の方へ取って行く。この間と同じやう



雨がはにわかれて取った。五六年は喜門先生指揮で取った。すこし行くと、たくさんあった。このことあること。とりきれないほど。すわりこんで、どんどん取った。はつと気がつくと、これも見えない。まだあるが、前に進んだ。やつと二部六年の所までおひついた。こんどはみんなといっしょに取った。たちまち袋がばいだ。高田先生のはなはにいっしょにいれていただいた。今日はたくさん取れたので、とてもはりあひがあった。

七月二十九日

日曜日

今日は全校運動の日だ。兵隊さんが運動場に出ていっしょにやるまで運動をする事になった。私達は五年女子といっしょに、久しぶりにしゅうるい球をした。ちつとも點がへらなない。もっともとおけいこをしなくてはだめだと思った。夜吉波先生が四恩のお話を下された。このやうに生きて行かれるのがほんたうに有がたいと思つた。

有がたし有がたしとせにすれば
ただ有がたき事はかり

七月三十日

月曜日

今日は休養日だ。女學校で自習をした。午後は午睡のあとで、田島さんと二人で鐵棒をじて遊んだ。何んにも出来なくなつてしまつ

た。さがあがりかやと出来た。六年にもなつてこんなことではだめだと思つていっしょくめいおけいこをした。

七月三十日 火曜日

算数の時間、分数と比例の考査があった。私は二まちがへてしまった。もっと勉強して百點を取らうと思った。



午後久しぶりに頭洗ひをした。ごしごしこすたので、頭がぼーとしてしまった。そのあとで、下駄箱のお掃除をした。とてもごみが出る。くつなどは、くものすけはいて、ごみだらけになつてみた。みんなで共同してやったので、とてもきれいになった。これから毎日きれいにすることにしよつてしようと思つた。

八月一日 水曜日

とうとう八月になった。これからとはとても暑くなるかう、心をひきしめて、暑さにかちぬいて行かう。八月は大島さんが班長だ。

二時間目から、山下寮の新を女学校へ運んだ。始めは大きいのか。できるだけたくさん運んだ。暑くてたまらないが、自分だけではないのだと思つて、いっしょくめい運んだ。たちまち、山と積みあげられておた新が、私達の手で、女学校へ

運ばれてしまった。よく働いたので、晝食が早かつた。とてもおいしい。午後寮でお洗濯をした。小矢部川から、楽しそうな聲がするので、行って見ると、かぼちゃのやうな頭が、たくさん水の上に見える。とてもうれしそうに、きゃーきゃーと聲を出して泳いでゐるのは、小さな子供ばかり。その中に三部五六年もまじつてみた。私も入りたくなつた。相良さんといふ人は水着を持っていらないので、おへりになった。私達はひかげで見えた。

八月二日 木曜日

今日もじりじりと暑い。午前中は普通通り授業だ。午後はお教室で、三つ椅子を並べて、午睡をした。気持ちよかつたのでぐっすり眠つてしまった。今日、前田寮は小矢部川で水泳をしたさうだ。さうして泳げなかつた人もみんな泳げるやうになったといつて喜んでいらつた。



八月三日 金曜日

朝會のあとですぐ、じゃがいもの皮むきをした。お晝のおいしいおかず。まにあふやうに急いでむいた。

午後は全員水泳。私はおなかをこわしてゐるのになかすのふちでめだか取りをした。とてもすばしこ

いので、なかなかつかまらない。キヤーキヤーいってやつと一匹。暑いのでひかげに入って、みんなの水泳を見學した。

八月四日

土曜日

今日から夏期特別鍛練週間だ。今日は午前中水泳。今日も私は見學した。早くなほって泳ぎたいなあと考えた。田舎がよいのでとても暑かった。みんなとても楽しそうに泳いでゐる。吉田さんも塚井さんも三橋さんも泳げるようになって、とても喜んでいらつしやうだ。午後はや学校で午睡をした。

八月五日

日曜日

早起行軍。四時半起床。ぬむい目を、すりながらうけお起きた。

手拭を持って小矢部川で顔を洗ふ。

その氣持のよいこと。

朝のしんせん

な空氣を胸にうばい

にすひこんだ。

すぐに神社に集合。五時出發。ぼんだの櫻か

えりのいろし。元氣よく歌ふ聲は、静かな町

の間にひびき渡った。小川にそってしばらく行

く。心がけられとして氣持がよい。遠い山

をながめながら、あちく。



きりの中にうすく橋のかかってゐるのが見える。あそこがもくてき地なのだ。ずるぶん近い。橋の上で二十分間休けい。橋によっかかって小矢部川を泳ぐ。魚をながめてみた。歸りは、もう日が高くなるのぼつてみた。おなががすいてみたので、朝食がとてもおいしかった。

八月六日

日曜日

午前水泳。今日は福光橋のそばだ。私は今日も見學をした。すこしすると、警戒警戒報が發令せられたが、富山の方にはこなかった。のですぐ戒解になった。

午後は寮へ歸つて頭洗ひをした。とてもきもちがよかった。

八月七日

火曜日

午前中は自習だった。

午後は終轉作業だ。山下寮の五

男の荷物を西尾寮へ運んだ。暑いのが兵隊さんの

事を思へばなんでもない。みんなで力を合せてや

たので、すぐに終つてしまった。作業が終ると、

おいしいおいしいじゃがいものお八つが待ってみた。

あまいコー茶に、おいしいじゃがいも。飛び込むや

うに口の中に入った。

夕食の前校長先生がいらつしやうていろいろはげ



ましのあとと葉をいただいた。とても有りがたかった。さうして、どんなにうれしい事があってもがんばるぞと心にちかった。

八月八日 水曜日

大詔奉戴日だ。式が終ってから山下寮の大掃除に行った。二部六年は玄關だ。出来るだけきれいにしよう、いっしょけんめいやった。終ってから女子寮へ行くと女子寮のお玄關がとてもよごれていたので、きれいにしておいた。とても気持ちよくなった。これからもうよいことをしようと思った。

午後は寮へ歸ってお洗濯をした。

八月九日 木曜日 晴

今日は移轉作業だ。山下寮の三年の荷物を本田寮へ運んだ。今度から本部が本田寮になった。



午後は山下寮の新館の大掃除をした。すこしかれてみたが、みんなもさうなのだと思っ
ていっしょけんめいお掃除した。とてもたくさんがみ
が出た。いっしょけんめいやったのでとてもきれい
になった。

八月十日 金曜日

女子寮の黒板を見てはつとした。『ソ聯は日本に對し
戦闘状態に入れり』とうとうやって來た。いまや日本
は全世界を相手に戦ひを始めたのだ。やるぞ、

撃ち止やまむの大和魂で行くのだ。今日は寮舎の整理整頓をした。荷物を全部だし、整理した。整理しながら、順番にとこ屋さんへ行
た。荷物がたくさんあるので、ど
れからまとめてよいかわからなかつた。やっと整理がついた時は、もうお昼だった。まだ出来な
い方もいらっしやるので午後も續
けてやった。私はとこ屋さんへ行
つてもさっぱりした。

八月十一日 土曜日

午前中はじやがいもの整理をした。

四五年の女子といっしょにやった。下の方をかへす
と、くさったのが手にぬるるとさける。人数が多いの
のですぐ出来てしまった。

午後は水泳。今日は私も入った。私は泳げないので
つまらなかつた。おへつにじやがいもが出た。

お八つがすむと、急に空が曇って、大粒の雨がざあ
ざあ降りだした。夕立だ。みんなよろこんでゐる
晝間の暑さもすっかりわすれてしまった。夕食の
時は、もうすっかり晴れて、夕日が部屋いっぱいにし
こんでゐた。

八月十二日 日曜日

久しぶりに授業だ。國語の考査があった。今まで
授業がなかつたのでゆだんしたせい、よく出来なかつ



た。あとの三時間はずっと自習だった。
夕食後お風呂にへった。出てから縁がはですず
だ。家の事がいろいろ思ひ出された。

八月十三日 月曜日

朝食後、すぐに寮へ歸ってお洗濯をした。日影
が一つもないので暑くてたまらなかつた。今日は
寝まきを洗ったのでおそくなつてしまった。
三時間目は久しぶりに体操をやった。赤目に
わかれてだるまさん運びをやった時はとても愉快だ
た。

午後は水泳。今日は吉波寮の前のものでやった。
私はやっとうけるやうになった。ばたあしをする
足のうごかしがたが下手なので、すぐ沈んでしま
う。お八つは、女學校でみんなそろって、いり米
をいただいた。

今日からおぼんだ。

八月十四日 火曜日

午前中ずっと自習なので、書き取りの練習をした。
一から今習つてゐる月光の曲までやった。ずいぶ
んかけない字があつた。何回も練習しようと思つた。

夕食後、いじやがいもが来たので整理をした。今日

はくさったのは、よいのと取りかへ

てくれるやうだ。とてもたぐさ

んあつた。終つたころは、もう夕陽

は西沈んでゐた。



八月十五日 水曜日
朝會後体重測定をした。私は前と同じだった。
終つてから音楽の考査があつた。

夕食後寮へ歸ると、お兄様から日本は無条件降
服をしたとおつしやつたのでびっくりした。
よくわけをお聞きすると、どうしても降服しな
くてはならなくなつてしまつたのだ。でも、どう
してもしゃくでたまらなかつた。七時に報道が
あつたのでしずかに聞いた。胸がはりさけるやう
な思ひでいっぱいだった。

八月十六日 木曜日

朝食後情報があつた。それはほかでもない。日
無条件降服した事についてだった。始りおもし

は、どうでもなかつたがだんだん宮地にお位だった
ふるへて来るやうで、胸がはりさけるやうな夕食

おそれ多くも天皇の身になにごとが起つて生
臣民にこれ以上苦しい思ひをさせたくないとい

せられてゐるのだ。有がたくで、
と涙がこみあげて来た。日本は科學がお

おたのだ。私達はもつとからだをきたへぶの
を勉強して、きつとくこのかたきこつた

はならない。
午前中は「大東亞戦争終結の大詔」時間

といふ題で、感想文をかいた。なんだか戦則がうま
いなど、うそのやうな感じがする。

八月十七日 金曜日

今日は休養日だ。午前中、女学校で自習をした。午後は寮へ歸って頭洗ひをした。久しぶりなので、とて洗ひもちよかつた。

夕食後お風呂だったかぬぐって下さうないの身だけふいて寝た。

八月十八日 土曜日

普通通り授業。久しぶりに楽しい。お便りが来た。お姉様からだ。その中にはこんなことが書いてあった。裕ちゃんのおたん生日には、お母様が物しのないのに骨を折ってあなたのおんまでごちさうお礼して下さった。私は有かたいなあと思った。足のうしお母様に御心配かけないやうに、もっとお八つぱにきたへし、かり勉強をして行かう。

をいただいた。

八月十九日 日曜日



間目自習なので寮へ歸。午洗濯をした。洗ひものがたくさんあつておそ一かろてしまったので、みんなよりあとから學子

んかけった。高田先生がへちまで

夕食

洗って下さった。あがつてからおるんがまで

はくさ

んあつた

は西沈



八月二十日 月曜日

日も又お洗濯をした。この間とりかへたばかりので、あまりよごれておなかつた。暑いので、なにか頭がぼつとしたやうな氣がした。暑さに負けものかと、いっしやうけんめい心をひきしめた。食後急に空が曇って雨がいきにもふり出しさうになったので急いで寮へ歸った。せみが急にうるさくはどなきたてた。

八月二十一日 火曜日

葉さん、起床よ。だれかに起されてはつとして目さめた。おぼけまなこで、急いで洋服にきかへた。はいやにぬむい。顔を洗って始めて目がさめたやうがした。こんな事では今日百がしかりくらせ

思つて、いっしやうけんめい目を見開いた。

夜はみんなで防主めくりをした。とてもおもしろかつた。時間のつのも忘れてしまふ位だった。

今日は疎開してから一週年記念日だ。夕食は、

いろいろなごちさうが出た。物資のないのに、先生

方が骨を折って作って下さったのだ。感謝をして

いただいた。

八月二十二日 水曜日

朝會の前玄關前をお掃除した。草がだいぶの

びて、根がなかなかぬけなかつた。

四時間目久しぶりにお習字をした。映畫音楽

放送の樂放送をおならひした。さうして、時間

の終りにお出しした。どうしても、名前がうま

八月二十三日 木曜 時々雨



朝から曇ってゐる。今日は休養日だ。私はお習字をした。名前が下手たので、先生のかいて下さったのを、二、三回うつしてから、自分でかいた。何回もかいた。前より上手にかけてもやれば出来ない事はないと思った。

八月二十四日 金

三時間目お野菜の配給を取りに行った。今日は福光橋のそばの配給所だった。つやつやしたおなすがたくさんあった。一回では運びきれないのので二回運んだ。五時間目の体操の時間に鉄棒をした。高い所なのでなにも出来なかった。

八月二十五日 土

一時間目の理科の時間に、阿久澤先生が原子爆弾の原爆の事についてお話しして下さいました。原子はともともも小さなものがものすごい力をもっているとは思へない。日本でも原子爆弾をけんきうしてゐたので、その者があつたさうだが、もうなくなつたので、その事は、日本人には、なにもわからないうさうだ。おしいなあと思つた。

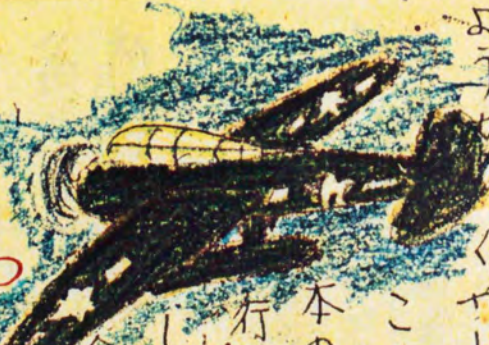
八月二十六日 日

今日も普通通り授業だ。私の洗面

器は小さいので、先生のをおかりした。とてもさびりした。夜お風呂に入ってから川のふちへ行つて涼んだ。星が空できらきらとかかがやいておとでもきれいだつた。

八月二十七日

朝食後、食器を洗つて外へ出た。すると、奇妙な音が頭の方から響いて来た。はっと思つて上を見たら時は、なにも言へなかつた。くやしいくやしい。私は、これまで一生けんめいた足で、地面を何回も何回もふみしめた。つばさにはアメリカのミューク。さうして又低空でゆうゆうと、この日本の青空を飛んでゐるこの飛行機を。私達はだまって見てゐる。よくかくくやくしてたまらなかつた。



本は青空を、アメリカの飛行機が飛ぶのかと思ふと、よくでしやくで。今にでもアメリカの飛行機をめちゃくちゃに。私達はやっぱり日本人にならう。さうして、今にこのうらみをみかへすのだ。

八月二十八日 火曜日

今朝高田先生がお家へお歸りになった。なんだかさみしくなつてしまった。早く歸つていらつしやるといい

なあと思った。

午後は野菜の配給を取りに行った。今日はこの間より近い。ざるにいっぱいなすを入れたので、途中でころがしてしまった。お八つにかんぱんがあった。久しぶりなのでとてもおいしかった。

八月二十九日 水曜日

目がさめると、どんよりと曇って、いまにも雨が降りだしそうだったが、

朝會をしてゐる間に、からりと晴れて、

とてもよいお天気になった。今日は休養日なので、寮へ歸ってお洗濯をした。とてもたくさんあったので、一ばんあとになっちゃった。

やっと終わったと思ふと、又あやしいお天気に

なつて来た。どうも雨が降りませんように

午後は女學校で自習

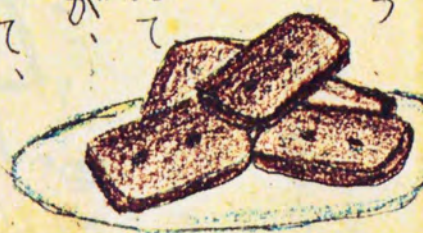
をした。風一つなく、とてもむしあつかった。

八月三十日 木曜日

朝會の前、運動場の草むしりをした。

根が浅いので、すぐめける。たちまちきれいになった。

午後あ体操の時間は、男と女とわかれて、しゅるい球のし合ひをした。いっしやうけんめいやつたので、勝った。とてもうれしかった。



三部六年はとてもくやしきうな顔をしてゐた。とてもよいお天気だったのに、夕食の時、急に曇り、雨がざあーざあー降って来た。並木先生が傘をもつて来て下さったので、ぬれずに寮へ歸れた。ありがたいなあと思った。

八月三十一日 金

雨はまだ降り續いてゐる。今日は八月の最後の日だ。

午前中は授業。午後は寮の

清掃整頓作業だ。今日は

雨が降ってゐるので、整

頓だけした。

どんどん、どんどん

太鼓の音が神明様の方から聞えて来る。なにかと思

て行くと見ると、神明様の前のお家に、きれいなキ

なちやうちゃんがいくつもゑがってゐた。さうして、お地

蔵様がががってあつた。お地蔵さまの前には、いろ

いろのおそなへものがしてあつた。子供達がその前に

なんにんもゐて、太鼓をたたいたりしてゐた。なんだか

私にはわけがわからない、きことお祭りでもしてゐる

九月一日 土曜日

今日から第二学期だ。あらたまつた氣持で、

第二学期の一日目をむかへた。二学期は勉強するに

も運動するにも、都合のよい時だ。しかりやう。

今日は田島さんが班長だ。仲よくやうて行かう。

午前中は普通通り授業だった。今日は高田先生



が歸っていらつしやる日だ。早く歸っていらつしやる
いいなあと思つた。

三時に枝豆のお八つが出た。とてもおいしかった。
束んでから、製材所から机を寮へ運んだ。とても
よいお机が出来た。うまいいな。

寝る時になつても高田先生は歸っていらつしやるな
かった。なんだか心配になつて来た。

九月二日 日曜日

今日は全校鍛練日だ。朝からはりきつて
運動場へ出た。久しぶりに
思ひきり運動が出来る。

行進のおけいこの後で、私達はしゅう

豊球だ。阿部先生の指揮のもとで、

元氣よくやった。一部としあひをし

たが、全部勝つた。最後に阿部先

生に、二部は元氣があつてよしとほめられた。とて

もうれしかつた。

夕食の時高田先生が歸っていらつしやる。なんだ
か急に心が明かるくなったやうな氣がした。

九月三日 月曜日

朝から小雨が降つてゐる。今日から授業は午前

中三時間で四時間目は午台することになった。

一時間目の圖畫の時間は寫生をした。遠

い所をかくおけいこだ。なかなかむづかしい。

今日中にかきあげるので、急いでかいた。
午後はたいくつなので、みんなでナボレオンをし



九月四日 火曜日

まだ雨は降り續いてゐる。早くよいお天氣になる
といいなあ。三時間目の綴方の時間は外へ出て俳
句を作つた。なかなかよいのが浮かんできてない。あ
まり作つたことがないので、まよつてしまった。

午後には大好きなお習字。今日は「皇國ノ興廢」
ノ一戦ニ在リのところをやつた。

九月五日 水曜日

今日は久しぶりにお辨當を持って安居寺へ行軍だ。
すこし危しいお天氣だが、あちこちに青空が見える

ので行く事になった。水筒とお辨當を持って元氣よく
出發した。だんだん青空が出て来て

とてもよいお天氣になった。
稲の穂がきいに出そろつ

て、いなごがびんぴんはねてゐた。

遠くの山を眺めたり、澄みきつた青空を

見たりして、ほかかな氣持で歩いて行つた。

安居寺は思つたより近かつた。御手洗川のきれいな

水を見ると、なんとなくおごそかな氣持がした。

二王門をくぐると目の前に本殿が拜まれた。

そこで宮地先生に安居寺についていろいろなお話し

をお聞きして、お辨當をいただいた。青空の下で久し

ぶりにお辨當をいただくのだ。そのおいしいこと。言
葉に現うはせないくらゐ。歸りは西野じりでお野菜



をいただいて帰った。

今日は楽しい行軍だった。

九月六日 木曜日

「おきこなさい。おきこなさい。」先生聲。ぬむいぬむいはね起きて時計を見るとまだ六時前。今日は朝のうちにお洗濯をするので、早く起こされたのだ。朝からかりりと晴れて、よいお天気だ。川のふちで洗った。草に露がたたくさんおりてみえる。朝は気持ちよいなあ、つくづく感じた。

今日は休養日だ。朝會後、渡り廊下のところのごみば、このごみを山のところへ捨てに行った。とてもたくさんある。いいでにまわりの方もきれいにした。なんだか午前中がとても早くすぎた。

午後もずっと学校で自習をした。高田先生は七理さん、田島さん、吉田さんといっしょに立野ヶ原へいらっしやした。さうして、すすき、おみなへし、こきゅう等を、澤山摘んでいらっしやした。とてもきれいだ。秋らしいなあと思った。

九月七日 金曜日

朝から雨だ。今日から新しい時間割で勉強をした。雨はすぐやみ、かりりと晴れた。圖書の時間は、この間の續きで、寫生をした。出来た人は先生のところへ持って行って、お點をつけていた。

午後ずっと自習。枝豆のお入りが出た。

九月八日 土曜日

今日は朝から晴れた。午前中普通通り授業。午後は明日の蹴壘球大會のわけいだ。六年女子は、十二組出るのだ。私ははけたので、見學をしてみた。

夜、寮へ歸る時先生が、



「今日寮へ歸るといいものが特ってある。」とおっしゃったので、いろいろあててみた。ちとともあたらない。寮へ歸って見ると、

かはいかはい、ほづきがあった。みんなよろこんで、さっそくもんだ。

九月九日 日曜日

目がさめると雨がしとしと降っている。蹴壘球大會も出来ない。國民學校の雨天、体操場はお降りして、投擲球大會をする事になった。蹴壘球と同じ人が出るの、私はいっしやうけんあ、應えんした。

今日の大會もやはり三部六年が優勝した。午後は寮へ歸って頭洗ひをした。夕食後、寮へ歸る時、東の空に、七色の美しい虹が

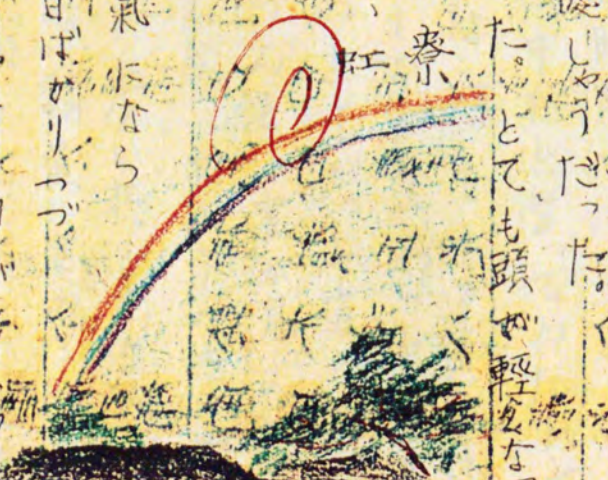
の橋がかかっていた。

九月十日 月曜日

今日も曇り。なかなかよいお天気にならない。冬になったら、毎日こんな日ばかりで、くのだと、先生がおっしゃった。午前中は自習が多

た。お晝食の時、國民學校から、たくさん南乳を

いただいた。ありがたいなあと思った。さっそくお八にふかしていただいた。感謝をして、おいしくいただ



き本にして行かう。

歸りは、いただいた南風をせなかに、元氣よく女學

校へ向った。

九月十五日

土曜日

どーんどーん朝かう太鼓の音が聞えて来る。今日はハ
幡様のお祭なのだ。

朝會後体重測定をしてから、すぐ床屋さんへ行つた

今日は男の方として下された。とてもきれいになったので、

お祭といふ感じが、いさう強くなった。小さな子が、きれい

なきれいな着物を着て、うれしそうに歩いてゐる。

お宮の前はとてにぎやかだ。笛や太鼓の音にうかれなが

らう学校へ歸った。十時半から、神社参拜をした。

午後は、二号教室で、けんかうしんだんがあつた。私は

Aだ。とてもうれしかった。もともとは丈夫にして行

かう。

九月十六日

日曜日

今日で、もう女學校の建物はお返しするのできれいに

お掃除をした。二部六年は門のところだ。この門も、も

うくぐる事が出来ない。みんなで「しやうけん命」きれ

いにしたので、見違へるほどになった。

終つてから、福光公園で招魂式

があつた。神主さんがとてもお

もしろい。おはいていこうとした。

ぬげないかと思つて見て

た。面白く、目もくらやみ、何となく

午後、女學校へいこうとしたので

寮へ歸ると、常會があるからあ

部屋をおつかひになるとおしやう

あるところがないので、みんなで小

をとり



矢部りのふちへ行つた。なだだか雨が降つた。さうした

われな宿なしだ。あまりたいくやなので、そろそろ出

かけた。さうして、先生、筆や三角定規、本、鉛筆、

いた。とてもきれいだった。お祭、な、お祭、お祭、

しよう。

九月十七日

月曜日

おきかさいといはれ、目がさめた。とてもうす暗い

時計を見ると六時だ。いかに暗いと思つて外を照る

と雨が降つてゐた。つまらないなあ。折角のお祭

濯もだめになつてしまつた。午前中は圖書館で、

日記を書いたり本を読んだりした。午後は圖書館

の二階でやはり自由白をした。空はどんよりと、雨は

あひかはらず降つてゐる。

九月十八日

火曜日

夕べから風がひどくとうとう颪風がやつて来た。お庭の

梅の木が倒れてゐる。あんな丈夫な梅の木が、なんだか惜し

いやうな氣がした。梅が心配だ。折角、お庭で来たのに

日の颪風でだめになつた。うお百、姓、さん、お庭、お庭、

になるだろう。お國のお米だ。どうぞだめになりません

ように。

今日の授業は圖書館だ。風の音で落ちついて、出校を

た。雨も降つて来た。早く静かなかなあ。

午後になると、風はやんだが雨はあひかはらず降つ

た。

九月十九日

水曜日

昨日の雨もすっかりやんで、今日は久しぶりにからり

としたよい天氣だ。うれしい。

九月十九日

お月見だ。家にゐた時の事を思ひだしなかに望みし
月を眺めてゐた。



今日の發表會は、~~此~~總會に迎へて、
いのかりだ。特に二三年の盆踊は、
うで、とても愉快だった。私達の時島は、
は、七



番目だった。一晩しか練習しないのに上手に出来たと思つた。

夕食は先生方が、私達の爲に、一生懸命作つて下さつたおはぎだった。感謝して、今日の秋季皇霊祭を祝ひながら、楽しくいただいた。とてもおいしいおはぎだった。夕食後、三袋づつかんぱんの配給があつた。

九月二十四日 月曜日

目がさめると小雨が降つてゐた。今日は三日目の授業で三時間だ。図書館の二階でやつた。

午後は寮へ歸つて頭洗ひをした。とてもさっぱりした。夜お風呂へ入つて寝た。とても氣持よかつたので、ぐっすり寝てしまった。

九月二十五日 火曜日

とてもよいお天気だ。一時間目は、神社の境内で、三きやくに座つて授業をした。久しぶりに青天井の下でお勉強。とても氣持がよい。久米川の事か、なつかしく思ひ出される。これで、机があつたらなあと思つた。二時間目は自習なので、寮へ歸つてお洗濯をした。時々涼しい風が吹いて、お洗濯をするにはとてもよい日だ。澤山洗つた。午後歸つてみるとすっかりかいてゐな



九月二十六日 水曜日

朝少し寒かつたが、とてもよいお天気だ。今日も授業はお宮の境内でやつた。二時間目三時間目は秋といふ題で綴方を書いた。

午後はたいくつなので、みんな昔の事を思ひ出しな

る。楽しくお話をしたりした。九月二十七日 木曜日 寒い。今から振へてみたら、冬はな

九月二十八日 金曜日

今日は休養日だ。だんだん寒くなつて来たので、今日は又物を出した。又十月、頃するの



で、十月半にヒる物だけを出した。私は全部ひくり返してしまつたので、どうしまつてよいかわからな

九月二十九日 土曜日

朝からとてもよいお天気だ。午前中図書館で授業。午後は寮へ歸つて、毛布にかぼーをつけた。木きなもののなので、思ふ通りには出来なかつたが、こんな事で自分で出来るやうになつたのだと思ふと、とても嬉しかった。それから下着のつぎもした。夜先生の洗つて下さつた敷布をしいて寝た。とても氣持がよい。今日はぐっすり寝られる事だらう。

九月三十日

日曜日

目がさめると、とてもよいお天気だ。午前中はいなか
取りだ。学校の裏の方へ行った。澄みきった青空に、
とうかうしのやうな、真赤な赤とんぼが、すいすい飛ん
でゐて、とても気持ちいい。皆思ひ思ひの所へ
行って、夢中になつていながら、袋を取った。だんだん袋が
ふくらんで来るのが楽しみだった。私のやうなすうう
まうないなごが澤山ゐるので、すぐ取れた。歸
り、いっぱいになつた袋をさげて、歸るやうに歸
て行つた。

十月一日

月曜日

もう十月だ。今月もしつかり毎日毎日を送つて行かう
今日から冬唄だ。なんだか頭が重くなつたやうな感じ
がした。午前中図書館で授業。

午後は寮へ歸らないで、図書館で本を読んだ。私は
昔の物語といふのを讀んだ。面白いので、熱中
してしまつて、時間やつのわからない位。本をあ
まり讀む事がなく、始めて本の面白さを
感じた。

十月二日

火曜日

朝からどんよりと曇つてゐて、今にも雨が降り出しそ
うな天気だ。午前中は普通通り授業。

午後になると、とてもよいお天気になった。お洗
濯物も、よくかはくだらう。寮へ歸つて算数

の宿題をした。夜先生が本を讀んで下さつた。とても面
白かつた。三日 水曜日

ものすごい風の音で目がさめた。真黒な雲が、風に
追はれて、どんどん走つて行く。風がひどくて、外
で授業がやりにくいので、図書館の下のお部屋をお借
りしてやつた。

午後は三時頃までお裁縫をした。高田先生の御注
意を頭に浮かべながら、一生懸命やつた。やつ
と裁ち終つた。あとは縫ふだけだ。きれいに縫つて
立派に出来上らせよう。

十月四日

木曜日

朝食後、新しくいらつた先生方の、新任式
があつた。女の先生が四人いらつた。どの先生も、
みなやさしさうな、よい先生だ。これから、一諸に
生活して行くのだ。先生方に御心配かけないやうに
しつかり暮して行かう。

午後は図書館でお裁縫をした。いいねいに縫ひ
始めた。外では、しきりに雨が降つてゐる。なんと
く陰気な感じがする。

夕食は、先生方のお心もつたおほかが出た。とても
おいしい。その後で、主事先生のお話があつた。
疎開の事についてだった。私達は三月までここに
ゐるのだ。寒さに負けずに、元気で冬を越さう。

十月五日

金曜日

朝から雨降りだ。二年女子の个賀さんのお父様か
私にお手紙を持て来て下さつた。お父様からだ。峯子お
姉様は、もう家へお歸りになつたさうだ。弟も今月中に
歸るが私は、三月までこちうで頑張らなう。と書いて

あった。きつと頑張るぞ。どんな事があっても、寒さに負けず、しっかりと暮して行くのだ。と心の中で誓った。

午後は図書館の二階で自習をした。

十月 六日 土曜日

昨日の雨もすっかりやみ、今日はからりと晴れた。よいお天気だ。今日は休養日なので、私達は図書館で自習をした。高田先生はお弁当を持って山へいっしょに行った。私も一諸に行きたいなあと思った。もうぢき、國語の考査があるりで調べておいた。午後図書館にみた。窓越しに外を見ると澄みきった青空に、とびが氣持よくさかすかに、大きな輪を為がきながつ飛んでみた。何だか私の心まで大きくなつたやうな氣がした。

十月七日 日曜日

朝から曇つて危しいお天気だ。今日は堀先生の御案内で、釜ヶ淵まで、お弁当を持って、行軍するのだ。雨が降りさうなので、すげ傘をかぶって行った。

どの家の柿の木も、枝が折れる位、澤山、柿が生つてゐた。赤みがかつたその色は、なんとも言へない秋らしい、明かすい色だ。横山立野ヶ原を通り、静かな山道へ入った。

時々かはい鳥の聲がして来る。その静けさを破つて、いどいどといふものすごい釜ヶ淵だつた。そこはもう釜ヶ淵だつた。ごうごうとしづきを立てて、岩にぶつかつてゐ



た。そこで楽しくお弁当をいただいた。まわりの美しい景色をながめながら。

歸りは、疲れて来たが、元氣よく歸った。

十月 八日 月曜日

朝から雨だ。今日は思ひ出す大詔奉戴日。もう慰問文も書けない。午前中は新時間割の第百目。図書館の階下でやった。

午後は寮へ歸つて日記を書いたりした。七理さんの日記を見せていただいた。毎日、毎日、きちんと繪が書いてあったので感心した。私もめんどくさからず、繪をきちんと書いてみた。いまでもきちんに残しておかう。

十月 九日 火曜日

目がさめると、まだ雨が降り續いてゐる。いやな雨だなあ。いつになつたら止むのかしら。

二時間目は國語の考査があった。一生懸命命やたが出来なかった。ふだんの勉強のやり方が悪いのだ。これから、もっともっと、ふだんからきちんやうしてやうと思つた。

午後は図書館の二階でお裁縫をした。夕食後小矢部川の増水の様子を見に行った。真茶色の水が、どうどうと流れてゐる。中洲は全部かくれて葉の先の方が少し出てゐる。なんだか私まで流されてゐるやうな氣がして、足が振へる。ていばうが、どどどどどとぐづれて行く。なんだか心配でたまらなかつた。



十月十日 水曜日

まだ雨が降り續いてゐる。日本當りにいやな雨だ。午前中、四年以上は、圖書館の二階で、堀先生の特剽授業があつた。富山縣のことについて、いろいろお話があつた。私達の疎開してゐる土地の事がよくわかつた。午後は、小矢部川の増水の時の流れの速さを測りに行つた。行つて見ると、高宮橋は、水の爲に、ゆがんでひびが入つてゐた。私は始めて、水の力と、恐ろしい力だなあ、とつくづく思つた。

とうとう、この日記帳も終りになった。六月からの、楽しい思ひ出となったのだ。ていねいにしまつておかうと思つた。

よい日記ですね。よく読みました。
殊に一月の中心がけつまりておもしろい。
あやうな事にも目をつけたり。人ご生れとある
様子はともよく合います。変化は常人だ。一日一
日たれ。九月二十四日様に味あひ日。十月七
日。それく、特徴をえうんで書くと
なす。わきとく。さうないとうか。一動好ま
ひり。こころで字をきれりにして建てて
いよう。よい。時一日記をみせて下さいね。
芝生を催促する下。――
気持のよい秋晴れの様子を記であつた事を
これく思ひます。